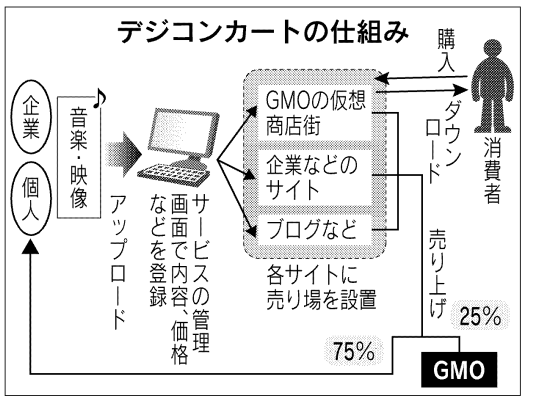
音楽・映像、ネット配信支援

GMO

GMOインターネットは音楽や動画の有料ネット配信を支援するサービスに乗り出す。ネット上の売り場づくりからコンテンツの配信、代金の決済までの一連の機能を提供。GMOが運営する仮想商店街とも連動させ、集客の面でも手助けする。通常なら最低で数万円かかる初期費用や月額利用料を無料にし、資金力のない中小企業や個人の需要を掘り起こす。



サービスは「デジコンカート」で、子会社のGMOデジタルコンテンツ流通（東京・渋谷）が17日からソフトの期間貸し（ASP）方式で提供する。

プログラミングなどの専門知識を必要としないのが特長で、一連の機能は専用の管理画面を開いて操作する。有料配信したい音楽や映像のデータを管理画面上でサーバーにアップロードし、紹介文や価格を入力すると、利用企業のサイトなどに自動的に売り場が表示される。

固定費用ゼロに

中小や個人需要を発掘

消費者はその売り場で買いたいコンテンツを選び、クレジットカード番号などを入力すれば、自分のパソコンにコンテンツをダウンロードして楽しめる。

今秋以降は売り場がそのままGMOの仮想商店街にも表示され、商店街の検索窓からも消費者を誘導できる。商店街のポイント制度にも対応し、ポイントによるコンテンツの販売や、販売額の数%のポイントを購入者に付与するといった販売促進の手段を提供する。

ソフトの利用料は実際に売れた額の25%。初期費用と月額利用料を無料にし、販売実績に応じた課金方式を採用することで、小規模事業者や個人が気軽に利用できるようにする。

中小企業が自社で開催したセミナーなどの動画をネットで販売するといった利用を想定。ローカルラジオ局が放送後の番組を有料配信するなどの利用法も提案していく。年内に300件の契約を目指す。

(C)日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。